

★この年間指導計画の特色

- ・3年間を通して、実生活に活用できる知識と技能を身に付けられることを重点においた指導計画となっている。
- ・授業の中では、実践的体験的な学習を計画的に取り入れ、なぜそのようにするのか、どういう意味があるのかなどを考えさせたり、それが実生活のどの部分で活用できるかを常に意識させたりしながら授業を展開する。また、学んだことを土日や長期休業日で実践できるように、系統立てた課題を準備しておき、生徒に取り組みさせる。
- ・言語活動を充実させるために、実習等の結果を整理し考察する学習活動を意図的に取り入れる。

1年生(週1時間で実施)

時間	題材(・学習内容)	指導要領 内容項
1	家庭分野の学習を始めよう	A(1)ア
2	中学生の食生活と栄養	B(1)アイ
3	・自分の食生活を振り返ろう ・栄養素の種類と働きを知ろう	
4		
5	日常食の献立	
6	・食品に含まれる栄養素を知ろう ・何をどのくらい食べればよいか考えよう	B(2)アイ
7	・バランスのとれた食生活を考えよう	
8	・一日分の献立を考えよう	
9		
10		
11	食品の選び方	B(2)ウ
12	・生鮮食品と加工食品について調べよう	
13	・食品の表示を調べよう ・食品添加物について調べよう	
14	・食品の保存の仕方を考えよう	
15		
16	日常食の調理をしよう	B(3)ア D(2)ア
17	・調理室の使い方を確かめよう ・きゅうりの基本的な切り方に挑戦しよう	
18	(手作りドレッシング)	
19	・まとめと振り返り	
20	肉の調理をしよう	B(3)ア
21	・肉の調理上の性質を知ろう ・ハンバーグの調理実習	
22	・まとめと振り返り	
23		
24	魚の調理をしよう	B(3)ア
25	・魚の調理上の性質を知ろう ・さばのみそ煮の調理実習	
26	・まとめと振り返り	
27		
28	家庭生活と消費	D(1)アイ
29	・自分や家族の身近な消費生活を振り返ろう	
30	・生活の場にあった商品の選択と購入について知ろう	
31	・消費者としての自覚をもとう ・環境に配慮した生活について考えよう	
32		
33		
34		
35		

2年生(週1時間で実施)

時間	題材(・学習内容)	指導要領 内容項
36	衣服の選択	C(1)アイ D(2)ア
37	・着る目的を考えよう ・自分らしい着方を考えよう	
38	・着ていない衣服の活用方法を考えよう	
39	・既製服の選び方を考えよう	
40		
41	衣服の手入れ	C(1)ウ
42	・洗濯 ・しみぬき	
43	・アイロンかけ ・ほころび直し	
44		
45		
46		
47	生活を豊かにする物を作ろう	C(3)ア
48	・ミシンの使い方を確かめよう	
49	・お弁当バックを作ろう	
50		
51		
52		
53		
54		
55		
56		
57	住居の機能と住まい方	C(2)アイ
58	・住まいの役割とは何だろう ・家族と住まいのかかわりを考えよう	
59	・安全に住むにはどうしたらよいだろう ・健康で快適な室内空間を考えよう	
60		
61		
62		
63	地域の食文化を知ろう	B(3)イ
64	・地域の食文化について調べよう ・地域で採れた野菜を使った調理実習	
65	・よりよい食生活を目指して	
66		
67		
68	家庭と家族関係	A(2)アイ
69	・家庭や家族の機能や地域とのかかわりを考えよう	
70	・家族関係をよりよくしていこう	

3年生(技・家で隔週で実施)

時間	題材(・学習内容)	指導要領 内容項
71	幼児の生活と家族	A(3)アイ
72	・幼いころを振り返ろう ・幼児の心身の発達と生活を考えよう	
73	・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の習得	
74	・幼児の生活と遊びを知ろう・遊びを豊にするおもちゃについて考えよう	
75		
76		
77		
78	幼児と触れ合おう	A(3)ウ
79	・幼児との触れ合いについて自分の課題をもとう	
80	・幼稚園訪問	
81		
82	生活の課題と実践	A(3)エ
83	・家族・家庭と子どもの成長	
84		
85		
86		
87	家庭生活と環境	
88	・限りある資源の有効利用 ・グリーンコンシューマー	

配慮事項等:

- ・「中学生の食生活と栄養」の学習では、中学生の時期に必要な栄養素の特徴を学習するので、1学年の最初に学び、3年間通して意識し日常生活に生かせるようにする。
- ・「日常食の調理をしよう」では、1学年で肉・魚料理の実習を、「地域の食文化を知ろう」では2学年で地域の食材を生かした野菜料理の実習を行う。
- ・どの学年にも調理実習を取り入れる(3学年では幼児のおやつ作り)。
- ・2学年の最初の時期に衣服の選択を学ぶことで進級に向けて制服を整える大切さを理解させる。
- ・発達段階を考慮し、3学年で「幼児の生活と家族」「幼児と触れ合おう」の学習を行う。
- ・携帯電話やネットショッピングの普及を考慮して、1学年で「家庭生活と消費」の学習する。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	家庭分野の学習を始めよう（1時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学んだことを話し合おう ・自立した生活について考えよう ・3年間を見通した学習目標を立てよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

A（1）ア	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	3学年間の学習に見通しをもち、自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて関心をもって学習活動に取り組もうとしている。			

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学んだことを話し合おう ・自立した生活について考えよう ・3年間を見通した学習目標を立てよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習を振り返り、3学年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・自分の成長や生活は家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付いている。 ・3年間を見通しをもって学習への目標を考えようとしている。 			
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ○小学校で学んだことを話し合おう ・小学校で学んだことを「衣・食・住・環境」の4つの分野から振り返らせる。 ○自立した生活について考えよう ・4つの分野の確認をし、自分でできるようになったことや自分の成長や生活が家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付かせる。 ○3年間を見通した学習目標を考えよう ・学習目標を立て、一人一人発表し、学習への意欲を高める。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	中学生の食生活と栄養（3時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活を振り返ろう ・栄養素の種類と働きを知ろう

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
B（1）アイ	中学生の食生活と栄養について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	中学生の食生活と栄養について課題を見付け、その解決方法を目指して工夫している。		中学生の食生活と栄養について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活を振り返ろう （1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活に関心をもち、健康によい食習慣について考え、日常生活で実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活を点検し、課題を見付け、健康によい食習慣などについて考え、工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割や健康によい食習慣の重要性について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と働きを知ろう （2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に必要な栄養の特徴について関心をもち、自分の食事と関わらせて考えようとしている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と働きについて理解している。 ・中学生に必要な栄養の特徴について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ○自分の食生活を振り返ろう ・前日の食事の内容を思い出し記録することで、自分の食事のよい点や問題点に気付ける。 ・食事の内容から塩分・糖分・脂質に注目させ、生活習慣病についての理解を深める。 ・上記の学習を踏まえ、健康によい食事になるよう、改善策を考える。 ○栄養素の種類と働きを知ろう ・食品成分表を使用し、食品に含まれる栄養素を調べる。 ・食品の栄養素が体内でどのような働きをするのか理解する。 ・食事摂取基準から成人と中学生の摂取基準の違いに気付かせ、理由を考えさせる。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	日常食の献立（6時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> ・食品に含まれる栄養素を知ろう ・何をどのくらい食べればよいか考えよう ・バランスのとれた食生活を考えよう ・一日分の献立を考えよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

B（2）アイ	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	日常食の献立と食品の選び方について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。	食品の選び方に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	日常食の献立と食品の選び方について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・食品に含まれる栄養素を知ろう（1）	・中学生に必要な栄養の特徴について関心をもち、自分の食事と関わらせて考えようとしている。			・栄養素の種類と働きについて理解している。
・何をどのくらい食べればよいか考えよう（1）	・食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量に関心をもち、食品について調べたり、計量したりしようとしている。			・食品を食品群に分類したり、計量したりする活動を通して、中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。
・バランスのとれた食生活を考えよう（2）	・中学生の1日分の食事のとり方に関心をもち、必要な栄養素を満たす食事のとり方しようとしている。	・中学生の1日分の献立について課題を見付け、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせについて考え、工夫している。		・中学生に必要な栄養量を満たす1日分の献立の立て方について理解している。
・一日分の献立を考えよう（2）	・栄養的にバランスのよい一日分の献立を考えようとしている。	・不足している食品群を補うような献立を考え、工夫している。	・食品群別摂取量のめやすを満たすように、献立を立てることができる。	・栄養的なバランスを考え、一日分の献立の立て方について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

- 食品に含まれる栄養素を知ろう
 - ・食品に含まれる栄養素について、成分表を使って調べ、表にまとめグループごとに発表する。
- 何をどのくらい食べればよいか考えよう
 - ・1日に必要な食品の種類と概量について、表にまとめグループごとに発表する。
- バランスのとれた食生活を考えよう
 - ・1日分の献立を考えさせ、工夫したことなどについて発表する。
- 一日分の献立を考えよう
 - ・不足している食品群を補うような献立を考え、工夫したことなどを発表させる。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	食品の選び方（5時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> ・生鮮食品と加工食品について考えよう ・食品の表示を調べよう ・食品添加物について調べよう ・食品の保存の仕方を考えよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

B（2）ウ	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	日常食の献立と食品の選び方について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。	食品の選び方に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	日常食の献立と食品の選び方について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・生鮮食品と加工食品について考えよう（1）	・生鮮食品と加工食品の特徴と品質の見分け方についてまとめようとしている。			・生鮮食品と加工食品の表示の意味と良否の見分け方について理解している。
・食品の表示を調べよう（2）		・用途に応じた食品の選択について、収集・整理した情報を活用して考え、工夫している。	・身近な食品を選択するために必要な情報を収集・整理することができる。	・食品の表示の意味について理解している。
・食品添加物について調べよう（1）		・用途に応じた食品の選択について、収集・整理した情報を活用して考え、工夫している。		・食品添加物の目的について理解している。
・食品の保存の仕方を考えよう（1）			・食品により保存の方法が違うことを理解することができる。	・食品の保存について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ○生鮮食品と加工食品について考えよう <ul style="list-style-type: none"> ・生鮮食品と加工食品の特徴と品質の見分け方についてまとめ、発表する。 ○食品の表示を調べよう <ul style="list-style-type: none"> ・同じ食品の食品表示を見て商品を比較し、自分はどちらの商品を購入したいか発表する。 ○食品添加物について調べよう <ul style="list-style-type: none"> ・食品添加物の種類と特徴、使われている加工食品についてまとめ、発表させる。 ○食品の保存の仕方を考えよう <ul style="list-style-type: none"> ・食品の保存方法について、家庭で実践していることを発表させる。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	日常食の調理をしよう（4時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> 調理室の使い方を確かめよう きゅうりの基本的な切り方に挑戦しよう（手作りドレッシング作り） まとめと振り返り

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
B(3)ア	日常食の調理と地域の食文化について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくするために実践しようとしている。	日常食の調理と地域の食文化について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
D(2)ア	環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。	環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。		消費生活と環境とのかかわりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

<ul style="list-style-type: none"> 調理室の使い方を確かめよう（1） 	<ul style="list-style-type: none"> 日常食の調理に関心をもち、調理技術を取得しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な日常食の調理について、調理に必要な手順や時間を考えて計画することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 調理室の使い方について理解している。 きゅうりの調理上の性質について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> きゅうりの基本的な切り方に挑戦しよう（手作りドレッシング作り）（2） 	<ul style="list-style-type: none"> 食品や調理用具等の安全と衛生に配慮し、調理実習で実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> きゅうりの調理上の性質を生かした調理を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。 洗い方 ・切り方 調味（ドレッシング作り） 盛り付け ・配膳 後片付け 安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。 ふきん、まな板、包丁などの調理器具 調理用電源 	<ul style="list-style-type: none"> 調味の要点について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> まとめと振り返り（1） 	<ul style="list-style-type: none"> 調理などの消費生活が環境に与える影響について関心をもち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して自分なりに工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> 食品や調理器具等の安全と衛生に留意した取扱い方について理解している。 調理などの消費生活が環境に与える影響について理解している。 環境に配慮した消費生活に関する知識を身に付けている。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ○調理室の使い方を確かめよう 調理室を初めて使う前に、使い方のルールや、安全・衛生・環境に配慮した調理実習の仕方を、具体的な行動のモデルを提示するなどして指導する。安全・衛生・環境に関しては、調理室でできることと家でできることをはっきりさせるなどして実践力を養う。 調理実習で使用する用具、食器、材料などの場所の確認をグループで協力して行い、当日にスムーズに行えるよう配慮する。 ○きゅうりの基本的な切り方に挑戦しよう（手作りドレッシング作り） 事前に決めた班の役割分担を責任をもって行えるよう、黒板に具体的な指示を出しておく。 野菜の切り方は、「いちょう切り」「半月切り」「斜め薄切り」「拍子木切り」「輪切り」「千切り」などを扱い、普段家庭の食事の中でよく使用する切り方について押さえる。ただし、時間と生徒の技術を考慮し、種類を減らすことも考える。 手作りドレッシング作りでは、調味料の計量を通して、調理実習で基本的な調理操作を確認する。 ○まとめと振り返り 調理実習を振り返り、本格的な調理に向けて、活動の改善点や次への目標をしっかりとめさせる。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	肉の調理をしよう（4時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> ・肉の調理上の性質を知ろう ・ハンバーグの調理実習 ・まとめと振り返り

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
B（3）ア	日常食の調理と地域の食文化について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくするために実践しようとしている。	日常食の調理と地域の食文化について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・肉の調理上の性質を知ろう （1）	・肉の調理に関心を持ち、調理技術を取得しようとしている。	・基礎的な日常食の調理について、調理に必要な手順や時間を考えて計画することができる。		・肉の調理上の性質について理解している。
・ハンバーグの調理実習 （2）	・食品や調理用具等の安全と衛生に配慮し、調理実習で実践しようとしている。	・肉の調理上の性質を生かした調理を工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。 ・洗い方 ・切り方（玉ねぎのみじん切り） ・加熱調理（焼く・炒める） ・調味（ソース作り） ・盛り付け ・配膳 ・後片付け ・安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。 ・生肉の取り扱い ・ふきん、まな板、包丁などの調理器具 ・調理用電源 	・加熱調理と調味の要点について理解している。
・まとめと振り返り（1）				・食品や調理器具等の安全と衛生に留意した取り扱い方について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<p>○肉の調理上の性質を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肉の料理に関心をもたせるために、普段の食生活の中でよく食べている肉料理をあげさせ、ビンゴ形式で身近な料理に気づくようにする。 ・肉には、種類や部位によって特徴があり、適する料理があることを、料理の本を参考にグループでまとめる。 <p>○ハンバーグの調理実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肉の性質を理解して調理が行えるよう、調理を始める前に、生徒が失敗しやすい事例について、対処法の確認をしておく。 ・洋風の配膳や食事のマナーを試食の際に意識して行えるよう、教師が見本を示す。 <p>○まとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通りにできたかを、計画表の相互評価表・自己評価表を使って、班で実習の振り返りを行う。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	魚の調理をしよう（4時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> ・魚の調理上の性質を知ろう ・さばの味噌煮の調理実習 ・まとめと振り返り

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
B（3）ア	日常食の調理と地域の食文化について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくするために実践しようとしている。	日常食の調理と地域の食文化について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

<ul style="list-style-type: none"> ・魚の調理上の性質を知ろう（1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚の調理に関心を持ち、調理技術を取得しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な日常食の調理について、調理に必要な手順や時間を考えて計画することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・魚の調理上の性質について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・さばの味噌煮の調理実習（2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品や調理用具等の安全と衛生に配慮し、調理実習で実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚の調理上の性質を生かした調理を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・洗い方 ・切り方 ・加熱調理（煮る） ・調味（味噌だれ作り） ・盛り付け ・配膳 ・後片付け ・安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・生魚の取り扱い ・ふきん、まな板、包丁などの調理器具 ・調理用電源 	<ul style="list-style-type: none"> ・加熱調理と調味の要点について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・まとめと振り返り（1） 				<ul style="list-style-type: none"> ・食品や調理器具等の安全と衛生に留意した取り扱い方について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ○魚の調理上の性質を知ろう <ul style="list-style-type: none"> ・魚の写真入り掲示物を用意し、黒板に掲示したり各班に配布し、魚の名前あてゲームをする。 ・魚料理をおよその調理方法ごとに分類し、魚の調理上の性質を生かした調理を発見させる。 ○さばの味噌煮の調理実習 <ul style="list-style-type: none"> ・材料に適した洗い方、下ごしらえ、切り方を、教師が見本を示し、魚の調理上の性質を確認してから調理実習に入る。 ・生徒が実習に慣れてくる頃なので、さばの味噌煮を主菜とする組み合わせ調理に挑戦しても良い。 ○まとめと振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・さばの味噌煮定食をグループで考えさせ、その調理に必要な調理器具等を考えさせたり、調理にかかる時間を考えさせたりと、見通しをもって調理を行うことの大切さをおさえる。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題 材 名	家庭生活と消費（8時間扱い）	
	・自分や家族の身近な消費生活を振り返ろう ・消費者としての自覚をもとう	・生活の場にあった商品の選択と購入について知ろう ・環境に配慮した生活について考えよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
D（1）アイ	家庭生活と消費について関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。	家庭生活と消費について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	家庭生活と消費に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活と消費について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・自分や家族の身近な諸費生活を振り返ろう（1）	・自分や家族の消費生活について関心を持ち、消費の在り方を改善しようとしている。			
・生活の場にあった商品の選択と購入について知ろう（2）	・身近な販売方法に関心を持ち、その利点と問題点について考えようとしている。	・収集・整理した情報を活用して物資・サービスの選択、購入及び活用について考え、工夫している。	・物資・サービスの選択、購入及び活用について必要な情報を収集・整理することができる。	・中学生に関わりの深い販売方法の特徴について理解している。
・消費者としての自覚をもとう（2）	・消費トラブルにおける販売方法に関心を持ち、その問題点について考えようとしている。		・クーリング・オフ制度の内容を理解してはがきを書くことができる。	・消費者の基礎的な権利と責任、消費者基本法の趣旨について理解している。
・環境に配慮した生活について考えよう（3）	・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考えようとしている。	・自分や家族の環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して自分なりに工夫している。		・環境に配慮した消費生活に関する知識を理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

○自分や家族の身近な消費生活を振り返ろう
・生活を支えている「もの」を具体的に挙げさせ、ピクチャーカードを使用し、商品には形の見える物資と、形の見えないサービスとに分類させる。
○生活の場にあった商品の選択と購入について知ろう
・支払い方法には、多種多様な種類と特徴について理解させる。特に前払いのカードや後払いの携帯電話などについて、管理能力を意識づけさせる。
○消費者としての自覚をもとう
・消費者トラブルでは、ロールプレイングの台本作りを通して、消費者トラブルを解決する方法を理解させる。
○環境に配慮した生活について考えよう
・何気なく行っている生活が環境に与える影響について、身の回りの生活行為をふり返りながら問題点に気付かせる。
・学校内の清掃を通して、暮らしの中から出てくるごみを取り上げ、ごみを減らすための意義や環境に配慮した商品の選択方法を理解させる。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	衣服の選択（5時間扱い） ・着る目的を考えよう ・自分らしい着方をしよう ・着ていない衣服の活用方法を考えよう ・既製服の選び方を考えよう
------------	-----------------------------------------------------------------------------------

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
C(1) アイ				
D(2) ア	衣服の着用、選択、手入れについて関心をもって学習活動に取り組み、衣生活をよりよくしようとしている。	環境に配慮した衣服の着用、選択、手入れ、について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	衣服の着用、選択、手入れに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣服の着用、選択、手入れについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

・着る目的を考えよう(1)	・衣服と社会生活とのかわりに関心を持ち、時・場所・場合に合った衣服を着用しようとしている。			・衣服の社会生活上の機能について理解している。
・自分らしい着方をしよう(2)	・衣服のコーディネートに関心を持ち、自分らしい着方をしようとしている。	・目的に応じた着方や個性を生かす着用について考え、工夫している。		
・着ていない衣服の活用方法を考えよう(1)		・環境への影響を考えたが、着ていない衣服の活用方法を工夫している。		・環境への影響を踏まえ、衣服の計画的な活用の必要性を理解している。
・既製服の選び方を考えよう(1)		・目的に応じた衣服の適切な選択について、収集・整理した情報を活用して考え、工夫している。	・既製服を選択するために必要な情報を収集・整理することができている。	・既製服の表示と選択に当たっての留意事項について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

○自分らしい着方をしよう ・制服やジャージの好ましい着方について考えさせる。 ・赤青黄緑など10～15色の色画用紙を用意し、自分にはどの色が似合うか、班で相互評価し合う。 ・似合うと言われた色を用いて、コーディネートを考えさせる。 ○着ていない衣服の着方を考えよう ・いろいろなパターンの着られなくなった服（しみがついてしまった、小さくなった、襟ぐりが伸びてしまったなど）を準備し、どのように再利用するか、アイデアを出し合う。 ○既製服の選び方を考えよう ・自分の私服を1枚持参させ、表示にどんなことが書いてあるか調べさせる。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

是直木才名	衣服の手入れ（6時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯をしてみよう ・ブラシかけをしてみよう ・ほころび直しをしてみよう ・スナップ付けをしてみよう ・アイロンかけをしてみよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項

C(1)ウ	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	衣服の着用、選択、手入れについて関心をもって学習活動に取り組み、衣生活をよりよくしようとしている。	衣服の着用、選択、手入れ、環境への影響について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	衣服の着用、選択、手入れに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣服の着用、選択、手入れについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

・洗濯をしてみよう (1.5)	・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れに関心を持ち、洗濯や補修の課題に取り組もうとしている。		・衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができる。	
・ブラシかけをしてみよう (0.5)			・布目の方向を考慮して、適切にブラシをかけることができる。	・ブラシがけの有効性を知り、手順を理解することができる。
・ほころび直しをしてみよう (1)			・布の表に縫い目が目立たないように意識しながら、まつり縫いでほころび直しができる。	
・スナップつけをしてみよう (2)			・正しい技法で、スナップを適切に付けることができる。	
・アイロンかけをしてみよう (1)			・布の種類によって温度を適切に選択し、適切な手順でアイロンをかけることができる。	

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<p>○洗濯をしてみよう ○アイロンかけをしてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各家庭から繊維製品をそれぞれ生徒に持ち寄せ、実習を行い、その結果を報告し合うことで、学んだことを共有できるようにする。 <p>○ブラシかけをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできる一番簡単な手入れだが、よごれから制服を守ったり、季節によっては花粉や病気のウィルスの除去にも役立つなど、とても有効であることを知らせ、家庭で毎日行うよう呼びかける。 <p>○ほころび直しをしてみよう ○スナップつけをしてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はやくできた生徒がうまくいかない生徒に口頭で説明したり、自分の作品を見せるなどして、助け合い学習を行うようにする。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	生活を豊かにする物を作ろう（10時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの使い方を確かめよう ・お弁当バックを作ろう

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
C（3）ア	衣生活、住生活などの生活の工夫について関心をもち、布を用いた物の製作などに取り組み、衣生活または住生活を豊かにするために実践しようとしている。	衣生活、住生活などの生活の工夫について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	布を用いた物の製作や衣生活、住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣生活、住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・ミシンの使い方を確かめよう （かんたん小物ケースを作ろう）	・布を用いた物の製作に感心をもって取り組み、自分や家族の生活を豊かにしようとしている。	・衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について自分なりに工夫している。	・安全で能率よく、布を用いた物の製作をすることができる。	・布を用いた物の製作に関する知識を身に付けている。 ①材料と用具の選択 ②製作手順 ③目的に応じた縫い方 ④用具の安全な取り扱い
・お弁当バックを作ろう	・自分や家族の衣生活又は住生活をよりよくすることに興味をもち、課題を主体的に捉え、製作や調査などの計画と実践に取り組もうとしている。	・自分や家族の衣生活又は住生活について課題を見付け、その解決を目指して製作や調査などの計画を自分なりに工夫している。 ・製作や調査などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ○自分の衣生活の課題解決を具体的に挙げられるようにするため、写真などの資料を提示して資料を整理してまとめ、身近な問題点を見付けられるようにする。 ○課題解決に向けた意見交換を通して自分なりに計画し、目的意識をもって製作できるようにする。 ○計画に沿って作業を進められているか、計画表に自己評価ができる欄を設けるなどの工夫をする。 ○製作に必要なミシンの使い方や作業手順についてグループ内で確認し、学び合う活動を通して知識の定着を図る。 ○計画表や作業を反省し、製作した物を実際に使ってみての感想などをレポートにまとめて発表会をする。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

是頁材名	住居の機能と住まい方（6時間扱い）	
	・住まいの役割とは何だろう ・家族と住まいのかかわりを考えよう ・安全に住むにはどうしたらよいだろう	・健康で快適な室内空間を考えよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
C(2)アイ	安全で快適な室内環境の整え方や住まい方、布を用いた物の製作に関心を持ち、整え方や住まい方の課題、製作に取り組み、住生活を豊かにしようとしている。	室内環境について課題を見付け、安全で快適な整え方や住まい方、住生活を豊かにするための製作品について考え、工夫している。	安全で能率よく、布を用いた物の製作をすることができる。	住居の機能について理科し、安全で快適な室内環境の整え方や住まい方、布を用いた物の製作に関する知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・住まいの役割とは何だろう(1)				・住居の基本的な機能について理解している。
・家族と住まいのかかわりを考えよう(1)	・自分や家族の住空間と生活行為との関わりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。			
・安全に住むにはどうしたらよいだろう(2)	・安全で快適な室内環境に関心を持ち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。	・室内環境について課題を見付け、調査・観察・実験などを通して安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。		・室内の空気調節、音と生活との関わりについて、安全で快適な室内環境の整え方や住まい方に関する具体的な方法を理解している。 ・家庭内事故の防止、自然災害への備えについて安全で快適な室内環境の整え方や住まい方に関する具体的な方法を理解している。
・健康で快適な室内空間を考えよう(2)		・室内環境について課題を見付け、調査・観察・実験などを通して健康で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。		
(住生活を豊かにする布を用いた物の製作を取り入れた場合)			・用具を安全に取り扱い目的に応じた縫い方で、布を用いた物の製作をすることができる。	

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

- 「住まい」について具体的に提示するようにする。（日本の各地の住まいの画像で気候風土・家の仕事と外観の関係）
- 「住まい」と家族との関わりについて考えらるるように、学習形態を工夫する。（グループでの学習で役割演技を取り入れたり、話し合いをすることで、具体的に考えられるようにする。）
- 共通の課題で学習できるように、モデルハウスなどを提示する。
- 室内の安全について、シニア体験やチャイルド体験を通して実感を伴って理解できるように設定したい。
- 学習のまとめや意見などの発表、自己評価と相互評価を取り入れ、表現する機会を多く設定する。
- 「学習カード」は、考えたことやその理由、感想、本人の創意工夫が見とれるような欄を入れるよう工夫する。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	地域の食文化を知ろう（5時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食文化について調べよう ・地域で採れた野菜を使った調理実習 ・よりよい食生活を目指して

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
B（3）イ	日常食の調理と地域の食文化について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくするために実践しようとしている。	日常食の調理と地域の食文化について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

・地域の食文化について調べよう（1）				・地域の食文化の意義について理解している。
・地域で採れた野菜を使った調理実習をしよう（2）	・食品や調理器具等の安全と衛生に配慮し、調理実習で実践しようとしている。	・調理に必要な手順や時間を考えて計画したり、食品の調理上の性質を生かした調理を工夫している。	・調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。	
・よりよい食生活を目指して（2）	・自分や家族の食生活をよりよくすることに関心をもち、課題を主体的に捉え、地域の食材を生かした調理などの計画と実践に取り組もうとしている。	・自分や家族の食生活について課題を見付け、その解決を目指して、調理などの計画を自分なりに工夫している。 ・実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<p>○地域の食文化について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の周りで作られている作物を観察する。 ・家の人や農家の人に旬の野菜や郷土料理についてインタビューする。 ・「地産地消」について調べる。 <p>○地域で採れた野菜を使った調理実習をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「けんちん汁」の材料、作り方についてインタビューなどで調べる。 ・材料にあった切り方を身に付け、けんちん汁を調理する。 <p>○よりよい食生活を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知っている食生活の問題点を発表させ、グループごとに調べたい課題を決める。 ・グループごとに課題解決し、発表する。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	家庭と家族関係（3時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や家族の機能や地域とのかかわりを考えよう ・家族関係をよりよくしていこう

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
A（2）アイ	家庭と家族関係について関心をもって学習活動に取り組み、家庭生活をよりよくしようとしている。	家庭と家族関係について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。		家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域との関わりについて理解している。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

・家庭や家族の機能や地域とのかかわりを考えよう（1）	・家庭生活と地域とのかかわりに関心を持ち。地域の人々との関わりについて話し合うことなどを通して、地域の人々とのつながりの大切さに気付いている。			・家庭や家族の基本的な機能について理解している。 ・家庭生活が地域の人々とのつながりの中で成り立っていること理解している。
・家族関係をよりよくしていこう（2）	・これからの自分と家族との関わりに関心を持ち、家族関係をよりよくするためにできることを実践しようとしている。	・自分の生活や事例の家族について課題を見付け、家族関係をよりよくする方法について考え、工夫している。		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<p>○家庭や家族の機能や地域とのかかわりを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サザエさん家族」を例に家庭で行っている活動を発表し、家庭や家族にはどのような機能があるか考える。 ・自分の身の回りのことをどの程度行っているか発表し、家庭の仕事について考える。 <p>○家族関係をよりよくしていこう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の様々な場面を設定し、ロールプレイングを行う。 ・自分の未来と家族について考え、ワークシートに記入する。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	幼児の生活と家族（7時間扱い）	
	○幼い頃を振り返ろう ・幼児の心身の発達と生活を考えよう ・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の習得	○幼児の生活と遊びを知ろう ・遊びを豊かにするおもちゃについて考えよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
A(3)アイ	幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとしている。	幼児の生活と家族について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	幼児の生活と家族について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・幼児の心身の発達と生活を考えよう				・幼児の心身の発達の特徴について理解し、知識を身に付けている。 身体の発育 運動の機能 言語、情緒、社会性 ・幼児の発達を支える家族の役割について理解している。 子どもの保護 情緒の安定 社会性
・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の習得				・基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性とそれを支える家族の役割について理解している。
・幼児の生活と遊びを知ろう	・幼児の遊びに注目して観察している。	・幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について考え、工夫している。		・幼児にとっての遊びの意義について理解している。
・遊びを豊かにするおもちゃについて考えよう	・幼児の遊び道具の製作を通して、幼児に関心を持っている。	・幼児の発達段階を押しえた遊び道具、遊び方について考え、工夫している。	・幼児の発達段階に応じた幼児が興味をもつような遊び道具が製作できる。	・遊びは、身体発育や運動機能、言語、情緒、社会性などの発達を促していることを理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

○題材の工夫

<例> 幼児とどう関わればよいか工夫する機会を授業に取り入れる

- ・ 触れ合い活動（幼稚園訪問）を中心とした、幼稚園との関わりを位置付けた題材の工夫。
- ・ 遊び道具の製作計画の段階で、ゲストティーチャーを活用する。（訪問先の幼稚園の教員をゲストティーチャーとして授業を行う）

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	幼児と触れ合おう（4時間扱い）
	・幼児との触れ合いについて自分の課題をもとう ・幼稚園訪問

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
A（3）ウ	幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとしている。	幼児の生活と家族について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	幼児の生活と家族について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・幼児との触れ合いについて、自分の課題をもとう	・幼児と触れ合う活動に向けて幼児に関心をもち、課題を設定して、幼児と適切に関わろうとしている。	・幼児の心身の発達に応じた関わり方について考え、工夫している。		
・幼児と触れ合おう（幼稚園訪問）	・幼児と触れ合う活動を通して、幼児への関心を深め、適切に関わろうとしている。	・幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方、幼児との関わり方について自分なりに考え、工夫している。	・幼児の遊びや遊び道具、遊びと心身の発達との関わりなどについて、観点に基づいて観察し、整理することができる。 ・体験したことを振り返ったり、まとめたり、話し合ったりするなど、学んだことを発表することができる。	

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

○考えたり説明したりする学習活動の工夫

<例> 幼児とどう関わっていけばよいか考える場の設定

- ・幼稚園訪問は直接体験。直接体験は、より多くのことを実感しながら学ぶことができる。
- ・学習するグループの構成の工夫（同じ課題をもつ生徒によるグループ）
- ・考えたり説明したりする学習活動の場を設定することにより、話し合う活動や意見交換が活発に行われる。そういう場が、生徒達にとって、幼児との関わり方や遊び道具製作の工夫改善につながる。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	生活の課題と実践（5時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の生活をよりよくするために ・家族・家庭と子どもの成長

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
A(3)エ	幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとしている。	幼児の生活と家族について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	幼児の生活と家族について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・幼児のおやつを作ってみよう	・幼児の生活を振り返り、食生活をよりよくする方法について関心を持ち、おやつ作りの計画を立てて実践しようとしている。	・野菜入りのおやつ作りを課題に設定し、野菜を生かしたおやつ作りの計画を、自分なりに工夫している。	・計画に基づいて、おやつ作りができる。 ・実践の成果や課題について、わかりやすくまとめたり、発表することができる。	・幼児期の食生活の特徴とおやつ必要性を理解する。
・家族・家庭と子どもの成長	・幼児を取り巻く環境に関心を持ち、幼児の生活をよりよくしようとしている。	・幼児の心身の発達に応じた関わり方について考え、工夫している。		・子どもを育てる環境としての家族の役割を理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

○考えたり説明したりする学習活動の工夫

- ・幼児を対象とした「野菜入りのおやつ」作りを課題に設定し、これまでの幼児についての学習を生かして、どのようなおやつができるか考え、自分の考えを意見交換し合う。意見交換後は、同じ課題をもつもの同士で計画を立て、実践する。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	家庭生活と環境（2時間扱い）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 限りある資源の有効利用 ・ グリーンコンシューマー

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

D（2）ア	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。	環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。		消費生活と環境との関わりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 限りある資源の有効利用（1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心をもち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境に配慮した消費生活について考え、実践を通して自分なりに工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーンコンシューマー（1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や家族の消費行動が環境に与える影響について関心を持ち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して自分なりに工夫したりしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費生活と環境とのかわりについて理解し、環境に配慮した消費生活に関する知識を身につけている。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ○ 限りある資源の有効利用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3Rの取り組みについて、日常生活と結びつけて点検させる。 ・ 環境に配慮した生活について、工夫していることを発表する。 ○ グリーンコンシューマー <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境ラベルのついているものを調査し、発表する。 ・ グリーンコンシューマーになるために必要なことを考え、宣言文にまとめ発表する。
